太政大臣公爵三條實美殿

指令按

伺ノ趣其省意見ノ通可為申渡事

明治十八年八月四日

参事院第一九四號 七月二十一日 司法部判第五八號 七月二十日 司法部受付印

司法部

第三一九四號

長事務兼攝ノ區長ニ係ル詞訟判決案伺

判所伺佐賀縣士族秋吉耕藏ヨリ長

攝長崎區長朝長東九郎ニ係ル

地方

シノ訴訟判決案ハ大旨相

當ナルモ

ハ溝江冨久馬ノ口供

ニ符合セサル

訟ニ對スル裁判

ノ旨趣ニモ抵觸シ

當ノ字句モ

有之ニ付原告陳述中「原

ル」ト

アル下〔ナク諏方町十九番戸

宿

人ナル旨〕ノ三十九字ヲ削リ代フ

三字ヲ以テシ又被告代人ノ答弁中「答

ハトアル下〔乙第二号乙第六号証云々之ヲ

甲二一九

太政大臣公爵三條實美殿

指令按

伺ノ趣其省意見ノ通可為申渡事

明治十八年八月　宮

司法部　參事院　一品　參事院第一九四號　七月二十　司法部判第五八號　七月二十　司法部受付印　司法省第三一九四號

戸長事務兼攝ノ區長ニ係ル詞訟判決案伺

長崎始審裁判所伺佐賀縣士族秋吉耕藏ヨリ長崎縣戸長事務兼攝長崎區長朝長東九郎ニ係ル地方税戸別掛リ取戻シノ訴訟判決案ハ大旨相當ナルモ説明第一條ノ趣ハ溝江冨久馬ノ口供ニ符合セサル而已ナラス前訴訟ニ對スル裁判ノ旨趣ニモ抵觸シ其他ノ廉々不穩當ノ字句モ有之ニ付原告陳述中「原告ヨリ徴收シタル」ト アル下（ナク諏方町十九番戸云々冨久馬方止宿人ナル旨）ノ三十九字ヲ削リ代フルニ（ナシト）ノ三字ヲ以テシ又被告代人ノ答弁中「答弁ノ旨趣ハトアル下（乙第二号乙第六号証云々之ヲ納ム

甲二一九

可キ筋合ナシ而シテ〔ノ八十七字ヲ削リ而シテ〕
説明前書中「依テ証據ヲ審閲」トアル下〔シタルニ〕
本書ハ左ノ條件ヲ審定スル云々何人カ之ヲ納
メタルヤノ事〕トアルハ八十四字ヲ削リ代フルニ
〔シ説明スル左ノ如シ〕ノ九字ヲ以テシ又説明中
〔第一條〕ノ全文及ヒ〔第二條〕ノ三字ヲ削リ又「明治
十四年一月ヨリノ下〔十二〕トアルニ字ヲ〔六〕ノ一
字ニ改メ又「手續ナル二甲第一号証」トアル下〔其
他〕ノ二字ト「切符ニハ」ノ下〔渾テ〕ノ二字ト「所持ス
ルノミニテ」ノ下〔ハ〕ノ一字トヲ削リ又「原告カ納
稅シタルノ証トハ為スヲ得」トアル下〔ス況ンヤ
原告ハ諏方町云々筋合ナキニ於テオヤ〕ノ六十
二字ヲ削リ代フルニ〔可ラス左スレハ原告カ曩

ニ本訴ト同一ナル納稅切符ニシテ勝訴タリシ
「アルモ元是該訴訟ノ事實ニ因レルモノナレ
ハ援テ以テ本訴ノ論據ト為スヲ得可ラサルモ
ノトス此他尚原被告ノ間ニ於テ相爭フ點アル
モ本訴ニ必要ナラサルヲ以テ茲ニ説明ヲ與ヘ
サルナリ〕ノ百十六字ヲ以テシ且判決中〔諏方町
十九番戸云々取戻度トノ〕トアル六十一字ヲ〔原
告ヶ戸別係リ地方稅取戻〕ノ十三字ニ改正セ
ハ穏當ト思考候條修正ノ上裁判為申渡可然哉
書類相添此段相伺候也

明治十八年七月一日　司法卿伯爵山田顯義

太政大臣公爵三條實美殿

伺ノ通

明治十八年八月七日

長崎始審裁判所

佐賀縣肥前國佐賀郡森田村貳百四拾八番戸士族秋吉耕藏ヨリ長崎縣長崎區長朝長東九郎ニ對スル戸別係地方稅取戻ノ訴訟明治十七年五月廿八日ノ御指令ニ依リ審理ノ上別紙裁判案ノ通見込候條一件書類相添此段相伺候也

長崎始審裁判所長

判事　大嶋貞敏

明治十八年五月十四日

司法卿山田顯義殿

裁判言渡書

原告人佐賀縣肥前國佐賀郡
森田村貳百四拾八番戸士族農業
秋吉耕藏

被告人長崎縣長崎區戸長事務
兼攝長崎區々長
朝長東九郎

代人長崎縣長崎區筆生
植野政二

右秋吉耕藏ヨリ朝長東九郎ニ對スル戸別係リ
地方稅取戻ノ訴訟ヲ審理シ原告人及ヒ被告代
人ノ陳述ヲ聽ク二

原告人陳述ノ旨趣ハ長崎區諏方町十九番戸中島亀五郎ノ裏家ヲ借受ケ止宿中明治十四年七月ヨリ同年十二月ニ至ル戸別係地方税貳拾五錢五厘ト手数料壱厘上納ス可キ旨ヲ以テ長崎區戸長役所ヨリ甲第一号証ノ切符配達相成タルニ依リ之ヲ上納ノ後縣廳ノ布達ヲ取調タル處甲第二号証ノ如クニシテ借家人ヨリ徴收ス可キ者ニアラサルヲ發見シタルニ付速ニ下戻ス可キ旨屢被告ニ照會スルモ被告ハ遂ニ下戻ヲ肯ンセス不得已茲ニ本訴ニ及ヒタリ然ルニ被告ハ右税金ハ家主中島亀五郎ヨリ徴收シタル者ニテ原告ヨリ徴收シタルヿナシト諏方町十九

答弁スルモ甲又一号乃至四号証ノ如ク被告ハ啻ニ本訴ノ地方税ノミナラス明治十三年七月以降明治十五年六月迄ノ地方税モ原告ヘ賦課徴收シタレハ社原告ハ其切符ヲ所持セシナリ特ニ甲又二号証明治十四年一月ヨリ六月ニ至ル地方税ニ於テハ被告ハ啻ニ原告ヨリ徴收シタルノミナラス之ヲ二重ニ徴收セシヲ以テ曾テ出訴ノ末其二重徴收ノ分ハ遂ニ被告ノ敗訴トナリ其二重ニアラサル分ハ被告ヨリノ示談ニ基キ徴收金額ノ返還ヲ受ケ濟口ヲ為シタル事實アレバ獨リ本訴ノ金員ノミ原告ヨリ徴收セサル筋合ナシ尤甲第一号証ニ原告ノ名前ハ記載ナキモ現ニ甲

原告人陳述ノ旨趣ハ長崎區諏方町十九番戸中島亀五郎ノ裏家ヲ借受ケ止宿中明治十四年七月ヨリ同年十二月ニ至ル戸別係地方税貳拾五錢五厘ト手数料壱厘上納ス可キ旨ヲ以テ長崎區戸長役所ヨリ甲第一号証ノ切符配達相成タルニ依リ之ヲ上納ノ後縣廳ノ布達ヲ取調タル處甲第二号証ノ如クニシテ借家人ヨリ徴收ス可キ者ニアラサルヲ發見シタルニ付速ニ下戻ス可キ旨屢被告ニ照會スルモ被告ハ遂ニ下戻ヲ肯ンセス不得已茲ニ本訴ニ及ヒタリ然ルニ被告ハ右税金ハ家主中島亀五郎ヨリ徴收シタル者ニテ原告ヨリ徴收シタルヿナク取ラ

告ハ冨久馬方止宿人ナル旨答弁スルモ甲又一号乃至四号証ノ如ク被告ハ啻ニ本訴ノ地方税ノミナラス明治十三年七月以降明治十五年六月迄ノ地方税モ原告ヘ賦課徴收シタレハ社原告ハ其切符ヲ所持セシナリ特ニ甲又二号証明治十四年一月ヨリ六月ニ至ル地方税ニ於テハ被告ハ啻ニ原告ヨリ徴收シタルノミナラス之ヲ二重ニ徴收セシヲ以テ曾テ出訴ノ末其二重徴收ノ分ハ遂ニ被告ノ敗訴トナリ其二重ニアラサル分ハ被告ヨリノ示談ニ基キ徴收金額ノ返還ヲ受ケ済口ヲ為シタル事實アレバ獨リ本訴ノ金貨ノミ原告ヨリ徴收セサル筋合ナシ尤甲第一号証ニ原告ノ名前ハ記載ナキモ現ニ甲

又十号証ハ一ハ被告カ自ラ不當ノ徴收ナリト認メ示談濟方ヲ為シタルモノ一ハ裁判ニ依リ被告ノ敗訴ニ帰シタルモノナルニ該切符ニモ原告ノ名前ハ記載ナカリシナリ加之明治十五年第三十号訴訟（二重徴收ノ税金取戻ノ件）ノ際中島亀五郎カ差出シタル甲又五号証ノ上申書及甲又八号証同人ノ陳述書等ニ依ルモ原告ヨリ徴收シタルヿ明瞭ナルヲ以テ速ニ右税金ノ返金ヲ受ケ度ト云フニ在リ

被告代人答弁ノ旨趣ハ乙第二号乙第六号証ノ如ク諏方町十九番戸裏借家人ハ原告ニアラスシテ溝江富太郎ナリ戸別係地方税ヲ原告ヨ[illegible]原告亦之ヲ納ム可キ筋合ナキヲ以テ明治十四年七月ヨリ十二月ニ至ル戸別係地方税ハ持主中嶋亀五郎ヨリ徴收シタリ故ニ其切符ニモ持主ノ名前ヲ記載シ唯表家ト区別センカ為メ裏ノ一字ヲ記入シ置キタル者ナリ且原告ハ甲又一号乃至四号証ヲ所持セシヲ以テ上納為シタル確証ナリトスルモ該切符ハ渾テ出所ノ分明ナラサル者ニ付証據トハ為スヲ得ス又甲又一号乃至九号証ノ如キハ既ニ裁判ヲ経或ハ示談濟方ヲ為シ或ハ未タ起訴セサル所ノ証書ニシテ毫モ本案ニ関係スル者ニアラス其他原告提供ノ証據ハ一モ原告カ納税シタルノ証據ニハアラサルヲ以テ右戸別係地方税ハ下戻ス

又十号証ハ一ハ被告カ自ラ不當ノ徴收ナリト認メ示談濟方ヲ為シタルモノ一ハ裁判ニ依リ被告ノ敗訴ニ帰シタルモノナルニ該切符ニモ原告ノ名前ハ記載ナカリシナリ加之明治十五年第三十号訴訟（二重徴收ノ税金取戻ノ件）ノ際中島亀五郎カ差出シタル甲又五号証ノ上申書及甲又八号証同人ノ陳述書等ニ依ルモ原告ヨリ徴收シタルヿ明瞭ナルヲ以テ速ニ右税金ノ返金ヲ受ケ度ト云フニ在リ

被告代人答弁ノ旨趣ハ乙第二号乙第六号証ノ如ク諏方町十九番戸裏借家人ハ原告ニアラスシテ溝江冨久馬ナレハ戸別係地方税ヲ原告ヨリ徴收セントスルモ為シ能ハサル事柄ニシテ原告亦之ヲ納ム可キ筋合ナシ而シテ明治十四年七月ヨリ十二月ニ至ル戸別係地方税ハ持主中嶋亀五郎ヨリ徴收シタリ故ニ其切符ニモ持主ノ名前ヲ記載シ唯表家ト区別センカ為メ裏ノ一字ヲ記入シ置キタル者ナリ且原告ハ甲又一号乃至四号証ヲ所持セシヲ以テ上納為シタル確証ナリトスルモ該切符ハ渾テ出所ノ分明ナラサル者ニ付証據トハ為スヲ得ス又甲又一号乃至九号証ノ如キハ或ハ既ニ裁判ヲ経或ハ示談濟方ヲ為シ或ハ未タ起訴セサル所ノ証書ニシテ毫モ本案ニ関係スル者ニアラス其他原告提供ノ証據ハ一モ原告カ納税シタルノ証據ニハアラサルヲ以テ右戸別係地方税ハ下戻ス

能ハスト云フニアリ

依テ証據ヲ審閲シ説明永許左左如條件ヲ審定スルヲ緊要トス

一 諏方町十九番戸稟家ヲ借受ケタル者ハ原告人ナリヤ否ノ事

二 右稟家ニ係ル明治十四年七月ヨリ十二月ニ至ル戸別係地方税ハ何人カ之ヲ納メタルヤノ事

第一條 原告ハ諏方町十九番戸稟家ヲ借受タル者ハ原告ナリト申立ルモ其引証スル處ハ甲又八号甲又九号甲又十九号証等ノ數証ニ過キス右甲又十九号証ハ年月ノ記載モナク

ハ稟家秋吉耕藏宅云々トハアルモ中嶋亀五郎ノ弁明ニ依レハ原告カ溝江富久馬方ニ寄シ居リ万事該家ノ世話ヲ為シ居タルカ如斯陳述ヲ為シタル迄ニシテ右秋吉云々

一 言ノミニテハ原告カ果シテ借家人ナリトハ認ル能ハス甲又九号証ハ原告カ借家ナルヲ証スル為メノモノニアラスシテ唯中島亀五郎方ヘ納税ノ督促ニ往キタルヲ証ルニ止ルモルナルヿハ乙第六号証ニ依リ之ヲ推測スルニ足レリ而テ中島亀五郎カ右稟家ハ溝江富久馬ニ貸與ヘタル者ニシテ原告ニ貸渡シタルヿナキ旨ノ陳供ヲ明治十五年

能ハスト云フニアリ
依テ証據ヲ審閲スルニ本訴ハ左ノ條件ヲ審定
スルヲ緊要トス
一諏方町十九番戸棄家ヲ借受ケタル者ハ原
告人ナリヤ否ノ事
二右棄家ニ係ル明治十四年七月ヨリ十二月
ニ至ル戸別係地方稅ハ何人ガ之ヲ納メタ
ルヤノ事
第一條　原告ハ諏方町十九番戸棄家ヲ借受タ
ル者ハ原告ナリト申立ルモ其引証スル處ハ
甲又ハ号甲又九号甲又十九号証等ノ數証ニ
過キス右甲又十九号証ハ年月ノ記載モナク
原告ノ自筆ニ係ル一片ノ反古紙ニ過キサレ

ハ採テ以テ証ト為スニ足ラス甲又ハ号証ニ
ハ棄家秋吉耕藏宅云々トハアルモ中嶋亀五
郎ノ弁明ニ依レハ原告カ溝江富久馬方ニ止
宿シ居リ万事該家ノ世話ヲ為シ居タルヨリ
如斯陳述ヲ為シタル迄ニシテ右秋吉云々ノ
一言ノミニテハ原告カ果シテ借家人ナリシ
トハ認ル能ハス甲又九号証ハ原告カ借家人
ナルヲ証スル為メノモノニアラスシテ唯中
島亀五郎方ヘ納稅ノ督促ニ往キタルヲ証ス
ルニ止ルモルナルヲ以テ乙第六号証ニ依リ之
ヲ推測スルニ足レリ而テ中島亀五郎カ右棄
家ハ溝江富久馬ニ貸與ヘタル者ニシテ原告
ニ貸渡シタルヲナキ旨ノ陳供ヲ明治十五年

一月溝江富久馬ヵ中島亀五郎ニ贈リタル書
簡中不相変留主宅ハ万事御厄介ニ預リ云々
トアルニ照シ右借主ハ溝江富久馬ニシテ原
告ハ富久馬方一時ノ止宿人ニ過キサルモ
ト認定ス

第二條　原告ハ明治十三年七月以降明治十五
年六月迄ノ納税切符ヲ所有シ居タルト明治
十四年一月ヨリ十二月迄ノ地方税ヲ原告ヨ
リ徴收セシ事件ニ付訴訟ノ未原告カ勝訴ト
ナリタルト又其勝訴トナリタル納税切符ニ
モ原告ノ名前記載ナカリシトヲ以テ本訴ノ
税金モ原告ヨリ納メタル者ナリト主張スル
モ本訴ハ明治十四年七月ヨリ十二月迄ノ地方
税ハ假令其前ニ被告カ徴收ヲ誤リタリ
迚毎納期必ス誤謬ノ徴收ヲ為ス者トハ断言
スルヲ得ス特ニ家主中島亀五郎ニ於テハ裏
家分ノ税金モ自ラ之ヲ上納シ其納税切符モ
所持シ居タル處曾テ他ノ切符ト共ニ數十葉
ヲ原告ニ貸與ヘ返却ノ際員數ヲ調査セス仕
舞置タルニ至テハ右地方税ノ切符ハ勿
論其他ノ切符共都合拾四葉紛失シタリト陳
供スルノミナラス尤ソ官民間ハ勿論民間互
ノ取引ト雖モ其金銭物品ノ受領証ニハ必ス
其之ヲ出シタル者ノ名宛ヲ記スルハ普通ノ
手續ナルニ甲第一号証其他ノ切符ニハ溝
中島亀五郎トノミ記シアリテ原告ノ名義ナ

一月溝江冨久馬カ中島亀五郎ニ贈リタル書
簡中不相変留主宅ハ万事御厄介ニ預リ云々
トアルニ照シ右借主ハ溝江冨久馬ニシテ原
告ハ冨久馬方一時ノ止宿人ニ過キサルモノ
ト認定ス

第二條　原告ハ明治十三年七月以降明治十五
年六月迄ノ納税切符ヲ所有シ居タルト明治
十四年一月ヨリ十二月迄ノ地方税ヲ原告ヨ
リ徴收セシ事件ニ付訴訟ノ末原告カ勝訴ト
ナリタルト又其勝訴トナリタル納税切符ニ
モ原告ノ名前記載ナカリシトヲ以テ本訴ノ
税金モ原告ヨリ納メタル者ナリト主張スル
モ本訴ハ明治十四年七月ヨリ十二月迄ノ地方
税ナレハ假令其前ニ被告カ徴收ヲ誤リタリ
迚毎納期必ス誤謬ノ徴收ヲ為ス者トハ断言
スルヲ得ス特ニ家主中島亀五郎ニ於テハ裏
家分ノ税金モ自ラ之ヲ上納シ其納税切符モ
所持シ居タル處曾テ他ノ切符ト共ニ数十葉
ヲ原告ニ貸與ヘ返却ノ際員数ヲ調査セス仕
舞置タルニ現今ニ至テハ右地方税ノ切符ハ勿
論其他ノ切符共都合拾四葉紛失シタリト陳
供スルノミナラス凡ソ官民間ハ勿論民間互
ノ取引ト雖モ其金銭物品ノ受領証ニハ必ス
其之ヲ出シタル者ノ名宛ヲ記スルハ普通ノ
手續ナルニ甲第一号証其他ノ切符ニハ単テ
中島亀五郎トノミ記シアリテ原告ノ名義ナ

キヲ見レハ唯原告カ切符ヲ所持スルノミニ
テ原告カ納税シタルノ証トハ為スヲ得可ス
得ラス左モハ原告カ畧本訴ト同一ナル納税切符ヲ所持シテ勝訴ヲ得タル人
アリシト云フ假令ヒ是該訴訟ノ事實ニ同シキモノナルモ援テ以テ
本訴ノ論據ト為スヲ得可ラサルモノトス其他尚原被告ノ間ニ於テ
テ相争フ點アルモ本訴ニ必要ナラサルヲ以テ茲ニ説明ヲ與ヘサルナリ

右之理由ニ付判決スル左ノ如シ

原告カ戸別割ニ係リ地方家税取戻ノ明治十四年七月
ヨリ十ヶ月ニ至ル戸別割係地方税ハ原告カ納
メタルモノニアラサルニヨリ原告カ之ヲ取
戻度トノ請求ハ相立タス

訴訟入費ハ原告之ヲ負擔ス可シ

右ハ太政官ノ裁令ヲ経テ明治十八年月

日長崎始審裁判所公廷ニ於テ裁判ヲ言

渡ス者也

長崎始審裁判所

判事　河野通樸

判事補　芝崎政治

書記　古賀経則

キヲ見レハ唯原告カ切符ヲ所持スルノミニテハ原告カ納税シタルノ証トハ為スヲ得ス況ンヤ原告ハ諏方町十九番戸一時ノ止宿人ナレハ假令被告カ誤テ借家人ニ賦課シタリトスルモ原告ヨリハ上納ス可キ筋合ナキニ於テオヤ

右之理由ニ付判決スル左ノ如シ

諏方町十九番戸棄家ニ係ル明治十四年七月ヨリ十二月ニ至ル戸別係地方税ハ原告カ納メタルモノニアラサルニヨリ原告カ之ヲ取戻度トノ請求ハ相立タス

訴訟入費ハ原告之ヲ負擔ス可シ

右ハ太政官ノ裁令ヲ経テ明治十八年　月

日長崎始審裁判所公廷ニ於テ裁判ヲ言渡ス者也

長崎始審裁判所

判事　河野通樸

判事補　芝崎政治

書記　古賀経則

司甲二一九號

明治十八年八月六日　内閣書記官

大臣

内閣書記官長

司法省伺佐賀縣士族秋吉耕藏ヨリ長崎區長ニ係ル地方稅戶別掛取戻ノ詞詔判決案ノ事

常

司甲二一九號

明治十八年八月六日　内閣書記官

大臣

内閣書記官長

司法省伺佐賀縣士族秋吉耕藏ヨリ長崎區長ニ係ル地方税戸別掛取戻ノ訴訟判決案ノ事

常

太政官第二局第一九七號

明治十八年八月六日

第二局

別紙司法省伺佐賀縣士族秋吉耕藏
ヨリ長崎區長朝長東九郎ニ係ル地方税
戸別掛取戻ノ詞訟判決按ノ件ハ參事院
意見ノ通御指令相成可然哉仰高裁候也

第三六四号

別紙司法省伺佐賀縣士族秋吉耕藏ヨリ長崎區長朝長東九郎ニ係ル地方税戸別掛取戻詞訟判決案審査スル丁左ノ如シ

長崎始審裁判所判決案ハ不穏當ノ廉有之ニ付司法省意見ノ通リ

右ニ由リ指令案左ノ通ニテ可然哉上申候也

明治十八年

参事院議長子爵福岡孝弟

九五七

第三六四号

別紙司法省伺佐賀縣士族秋吉耕藏ヨリ長崎區長朝長東九郎ニ係ル地方税戸別掛取戻詞訟判決案審査スルヿ左ノ如シ

長崎始審裁判所判決案ハ不穏當ノ廉有之ニ付司法省意見ノ通修正スルヲ可トス

右ニ由リ指令案左ノ通ニテ可然哉上申候也

明治十八年七月廿二日

參事院議長子爵福岡孝弟

太政大臣公爵三條實美殿

指令按

伺ノ通

明治十八年八月七日

参事院

参事院第一一二號 四月廿三日

第二〇〇一號

氏ヨリ戸長ヘ係ル詞訟判決案伺

裁判所伺判決案ハ其大体ニ於テ

考候得共誤字又ハ字句不穏

ハ

當ノ廣

ノ如ク修正ヲ加ヘ即チ

判文一葉第

錢九」ハ「貳拾錢五」ニ

改メ又二葉第十

余」ハ「貳拾錢五

厘」ニ改メ又同葉第二

有云々應

シ」ノ十二字ハ全ク刪了シ又

行ノ

「ヲ以テ云々枯助カ」ノ四十六字ヲ

ユルニ「ト此点ニ付原被両造ノ異論ナ

リ知ルヲ得ヘク而シテ此寄附タルヤ土地

限ニ應シ為シタルヿハ該乙第一号証ニ地租割

司法部

甲一三一

司法省